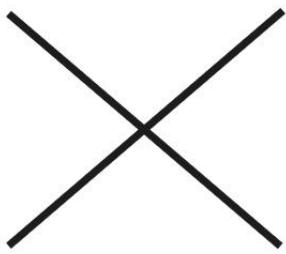


# 山形県立鶴岡聴覚学校



令和7年度第1回  
公開授業研究会の様子



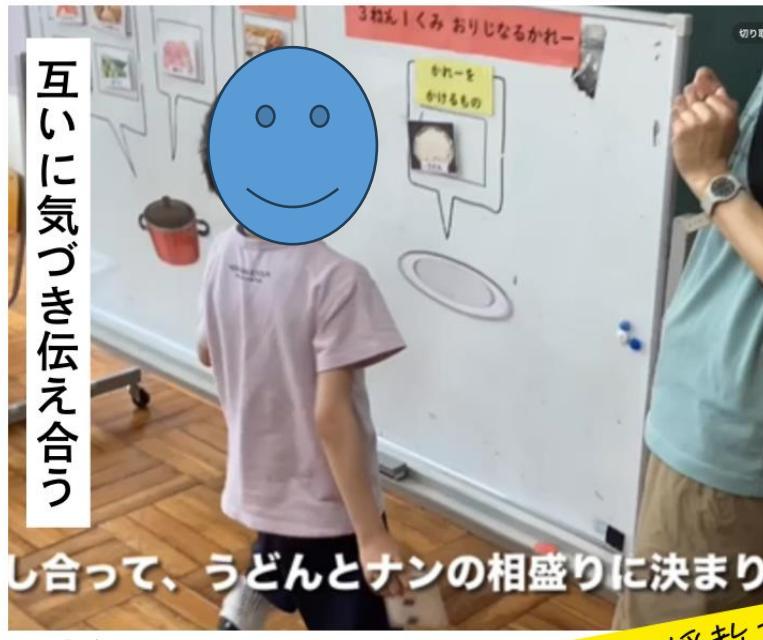
見つけて広げる



魅力的な課題  
との出会い



互いに気づき伝え合う



7月4日実施

小学部 3年

国語科 「We love カレー！」

特支援教育における、  
「オーセンティックな学び」とは



9月12日実施

中学部3年

国語科 「ぼくらのオリジナルストーリー」

# 研究授業 1回目 成果と課題

## ①成果

「魅力的な題材」..野菜、肉、イオン...そしてカレー 「材」の中で動き出した子どもの反応 「教材」の誕生した瞬間

学びの主体として動き出す姿

「子どもの主体性は、あくまでも、自らを受け入れてくれ自分の話をしっかり聴いてくれるという関係の中で、自ら追究したくなるような魅力的な課題との出会いの中で、はぐくまれていく」

守屋 淳 『子どもを学びの主体として育てる』ぎょうせい 2015

「単元を通して育てたい力」がはっきりと 単元終了後も広がっていく、子どもたちの生活に生かされる学び

単元を通して子どもたちはどんな力をつけるのか

「何をどのようなねらいで学ぶのか」「過去の学習、日常生活とのつながり」

「どのような学習活動をどのような順序で展開するとよいのか」

「学ぶことは 暮らすこと」

「『教科をちゃんとやる』ことが、教科を学ぶことではない」

大谷先生の助言より

「互恵的に問い合わせ気づきが生まれ、学習課題の解決を共に目指す」姿

「協働的な学び」の場面



## ②課題

教師の意図せぬ児童の反応に対してどう対応するか

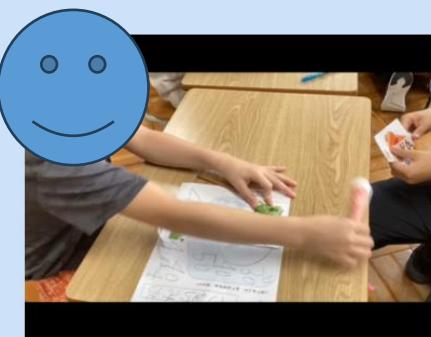
児童との「対話」の必要性



なぜその子はそうする必要があったのか

その行動には、どんな思いがあったのか

思わぬところから、学びが深まり広がる場合があります。その場で子どもと対話してみる。活動後に担当の教師間で話し合って、次の支援に活かす。など、こちらの意図せぬ子どもの姿に、授業改善のヒントがありそうです。



「個別最適な学び」をどう支えるか

協働的な学びの中での「個別最適」と「協働的な学び」で生まれた個別の課題の解決



「指導の個別化」



「学習の個性化」

子どもが「学びの主体」となる上でのSTのあり方

授業づくりについての話し合いを通して、各学部で「学びの主体」の意図

するところを授業に反映させながら、実践を積み重ねているところです。